

**単元名 地理的分野 身近な地域の調査**

**1 学年**

- 小 中  
 1 1  
 2 ②  
 3 3  
 4  
 5  
 6

**2 教科・領域**

- 国語 生活  
 ③社会 家庭  
 算数 図工  
 数 道徳  
 理科 総合

**3 テーマ**

- 多様性  
 ④関連性  
 空間的広がり  
 ⑤時間的変化

**4 資質・能力**

- ⑥知識・技能  
 ⑦思考力  
 判断力  
 ⑧表現力  
 ⑨主態度

**5 指導時間**

- ・準備 1時間  
 ・授業時間 1時間

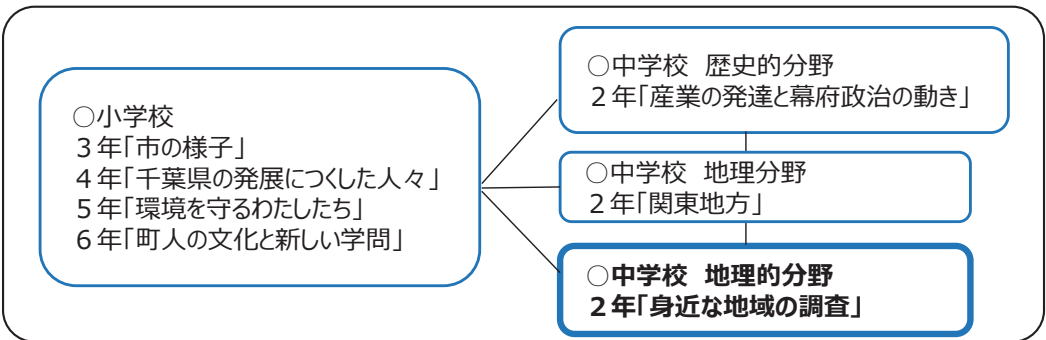
**背景**

本単元は、地理的分野の学習の総まとめとして、これまで習得してきた視点や方法を活用して、自分たちが住んでいる身近な地域を調査する単元である。  
 そこで、調査対象を印旛沼周辺地域とすることで、印旛沼とその周辺地域の特色をとらえ、郷土を愛する気持ちを高めたい。印旛沼流域を調査する視点としては、①環境問題・環境保全、②人口や都市・村落、③歴史的背景、④産業、⑤他地域との結びつき、⑥生活・文化、⑦自然環境が挙げられる。そして、印旛沼の生態系の変化や水源としての印旛沼、印旛沼周辺都市の結びつき、印旛沼の水質汚濁の原因とその変遷、印旛沼周辺の環境にやさしい農業、印旛沼の観光資源、印旛沼の歴史など、生徒自身の興味関心に合わせたテーマを設定させたい。  
 そして、調査・発表を通して、印旛沼周辺地域の課題を見出し考察するなどの社会参画の視点を取り入れた探究的な学習を行いたい。そうすることで、主権者として印旛沼のこれからの在り方や持続可能な発展の方法について模索するなど、印旛沼周辺地域の形成に参画し、その発展に努力しようとする態度を育むことができると考えた。

**ねらい**

- 印旛沼周辺地域の調査・発表を通して、郷土を愛する力を高める。
- 印旛沼周辺地域の情報を収集し、それをもとに調査テーマを設定する活動に意欲的に取り組ませるとともに、適切な調査テーマを設定できるようにさせる。
- 調査を通して、身近な地域の地域的特色をとらえる視点や地域調査の方法、地理的なまとめ方や発表の方法を身につけさせる。

**系統**



**資料・準備・関連機関等**

- 資料 ・いんばぬま情報広場HP (<http://inba-numa.com/>)  
 ・いんば沼のはなし (印旛沼環境基金、2019)  
 ・いんば沼～むかし、いま、そしてあした～ (印旛沼環境基金、2009)  
 ・印旛沼ってどんな沼～私たちに何ができるか、考えよう～ (千葉県、2006)  
 ・開拓維新記印旛沼の水土に挑む開拓精神 (関東農政局印旛沼二期農業水利事業所)  
 ・印旛沼環境基金HP (<https://www.i-kouiki.jp/imbanuma/>)  
 ・生きている印旛沼 民族と自然 白鳥孝治著 (崙書房出版、2006)  
 ・印旛沼流域水循環健全化調査報告書第2号「印旛沼物語」 (千葉県、2014)  
 ・こうすれば考える力がつく！ 中学校思考ツール (小学館)

**指導計画**

時 配	学 習 内 容
1	身近な地域を見直そう
2(本時)	テーマを決めて調査計画を立てよう (本時)
3～4	資料を調べて調査活動
5～6	調査結果をまとめ、地域を見直そう
7	発表会をしよう
8	地域の課題や将来像を考えよう

